

科学技術政策担当大臣等と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成24年12月27日（木）11：11～12：07
- 場 所 合同庁舎4号館第2特別会議室
- 出席者 山本大臣、相澤議員、奥村議員、大西議員
倉持統括官、大石審議官、中野審議官、吉川審議官

○ 議事概要

議題1. 専門調査会の審議状況等について

- 相澤議員 本日の議題の1つ目は、専門調査会の審議状況等についてであります。科学技術イノベーション推進専門調査会、それから評価専門調査会が開催され、それぞれ結果をまとめて頂いている状況であります。その内容の御紹介と今後の進め方について、これから説明させていただきます。

本日は、この内容を議論するというよりは、まとめられた報告を御披露するにとどまるかと思えます。1つ目は、科学技術イノベーション政策推進専門調査会のまとめであります。「基-1」という資料であります。この資料は、これまで色々と議論して頂いた内容が、先日行われました専門調査会で承認されました。これは「イノベーション創出環境の革新」という副題がついておりますように、創出環境をどう改革すべきかがまとめられたものであります。

お手元の資料に目を通して頂くと、IとIIという2つの項目に分かれております。Iは課題達成型科学技術イノベーションのための構造改革、IIは基礎研究力の充実強化という内容でまとめられておりますが、詳細についての説明は、省略させていただきます。

もう一つ、評価専門調査会が評価結果をまとめて、11月15日の専門調査会及び11月21日の専門調査会で決定しております。この専門調査会のまとめは大規模の研究課題についてのものです。1つ目が、個別化医療に向けた次世代医薬品創出基盤技術開発、2つ目が革新的新構造材料等技術開発の評価結果であります。それぞれについて「評-1」「評-2」という資料にまとめられております。それでは、専門調査会のまとめた内容を御紹介ください。

<内閣府 杉谷参事官から説明>

- 相澤議員 只今説明がありましたように、専門調査会のとりまとめが「基-1」という形で最終的にまとめられております。まずこの部分と、それからもう一つ、先程申しましたように評価専門調査会のほうで評価結果がまとめられております。これについては特段の説明を必要としないと思えますので、資料をここに付けておくことにさせていただきます。

このように、3件の取りまとめが進んだ訳であります。今後の進め方について、これから申し上げたいと思えます。まさしく政権交代の直後でございますが、現時点では次の総合科学技術本会議が開催される見通しが立っておりません。それから、来年1月5日付で任期満了となる総合科学技術会議有識者議員に関連する人事について、まだ国会に提出、審議される見通しも立っておりません。この状況を考えますと、今年1月からと同様、総合科学技術会議が本会議としては機能出来ない状況が参ると思われれます。

今年末までに総合科学技術会議の本会議で先程のイノベーション政策推進専門調査会のまとめを提示するという目標で進んで参りました。その取扱いにつきましては、今後の状況の進展を見ながら判断させて頂きたいと思えます。

同様に、評価専門調査会でまとめて頂きました評価結果2件についても、総合科学技術会議での取り扱いについては、今後の情勢を見ながら判断させて頂くことにさせて頂きたいと思えます。そういう進め方について、御意見等ございますでしょうか。それでは、そのような進め方をとらせて頂きます。

議題2. 「地球観測の推進戦略」の実施状況のレビューについて

- 相澤議員 次の議題は、「地球観測の推進戦略」の実施状況であります。この議題につきましては、「グ-1」という資料が添付されております。これにつきまして、説明をお願いします。

<内閣府 岩崎参事官から説明>

○相澤議員 地球観測の推進戦略が8年目を迎えておりますので、先程説明のありましたような事情から、それに対応するような形で推進戦略の見直しを行うという説明であります。そこで、見直しを行う前に文部科学省の地球観測推進部会に8年間の全体を取りまとめて頂くようお願いするということが、本日の趣旨であります。地球観測の推進戦略そのものについて、必ずしも馴染みがあるかということになりますと、いささかという問題もございますので、この際、御質問等を頂ければと思います。

○大西議員 趣旨は結構だと思います。ただ、地球観測というのは理学的、或いは地質、大気、海洋、そういう地球の環境を観測することが主ではないかと思うのですけれども、最近の議論では、観測される地球の種々のデータに人間活動がかなり影響を与えているのだと。温暖化もそうですけれども、それ以外に色々なことで、人間活動と地球の環境がますます関係が深まっているということで、それらを統合的に考える必要があるという議論が出てきていると思うのですね。

先程少し出てきましたけれども、Future EarthというICSUが提唱しているプログラムは、ICSUだけではなくてユネスコとか、或いはベルmontフォーラムという、文部科学省はメンバーに入っておられるかと思っておりますけれども、国際的なファンディングエージェンシー等が入っている組織ですね。こういうところがこういうテーマに取り組もうと。そのポイントは、地球の観測とさまざまな人間活動、だからこれはデータからいくと社会科学的なデータとか、或いは文化等も入るかと思っておりますけれども、そうした活動とを統合的に考えようというのが一つのポイントで、それを統合することを通じて新しいガバナンスの仕組みのようなものを考えていって、サステナブルな地球をつくろう、簡単に言えばそういうことだと思うのですけれども、そういう意味では今回の過去8年のレビューは、これはこれとしてやる訳ですけれども、それを踏まえて次のステップに行くときに、少し幅を広げる必要があるのかなと思うのですね。是非そういうことも視点に入れながらレビューをして頂くといいのかなと思います。

○相澤議員 今、御指摘のFuture Earthその他は、この状況変化にも入れてありますように、そのような大きな動きが出てきておりますので、それに対応出来るような形で基本戦略を見直す必要があるということでございます。今、御指摘の点は、文科省として検討して頂くに当たっても重要な点だと思いますので、別途付記するなりして、こういうところに十分注意を払って検討して頂きたいとしては如何でしょうか。

○事務局（岩崎参事官） 分かりました。

○相澤議員 その他如何でしょうか。

○奥村議員 見直しをされるということは、是非やったらいいと私も思います。これまでも、このテーマに限らず見直しをされる施策或いは戦略というのは幾つもあった訳ですが、やはり大事なのは、今、御指摘があったように見直しの視点を最初にきちっと打ち立てて、それで見直し作業に入る。そうしませんと、ややもすると議論が発散傾向になる恐れというのは、これまで他のテーマでも経験しておりますから、見直しに当たっての視点の整理にかなり、今、大西議員が御指摘の点も踏まえて細心の注意を払って頂きたい。

○相澤議員 只今御指摘の点は、総合科学技術会議がやるべきことと文部科学省にやって頂くこと、この仕分けが必要かと思っております。ここでお願いするのは、まず、これまでの8年間の施策の推進状況、これを全体的にまとめて頂く、これが文部科学省の部会にお願いする点であります。その内容を踏まえて戦略そのものを見直すのは総合科学技術会議でありますので、そのときに、今、御指摘の、どういう視点で見直すのかを明確にして進めていくという形になると思います。その他は如何でしょうか。

○大西議員 この見直しについては、先程の奥村議員の御意見のようにやって頂ければいいと思うのですが、先程少し申し上げたFuture Earthについて、これは今、準備をしている国際的な

動きがある訳ですけれども、少しその準備を本格化することになっているようでありまして、出来ればそういうものの拠点を、従来ヨーロッパが中心であったものを、ヨーロッパ以外に中心を置いて研究のプログラムを進めていったほうがいいという国際的な意見もあるのですね。ですから、日本を含めたアジアで世界的な研究の拠点となる機能を発揮するようなことも、考えていく必要があるのではないかと。具体的には、多分暫定オフィスをつくって暫定事務局長を選んで、科学委員会を設置して進めていく、そういった動きに来年なっていくのではないかと。思うので、CSTPとしてもそこに、どうかかわるかはともかくとして、司令塔としてはそれを把握して適切に誘導していくことが必要なのかなと思います。

○相澤議員 只今の御指摘は、学会議としては如何でしょうか。

○大西議員 学会議としても取り組んでいくのですけれども、総合科学技術会議としても、是非そういうこともやって頂きたい。

○相澤議員 そこは、是非緊密な連携をして進める必要があろうかと思えます。その他、宜しいでしょうか。それでは、只今御指摘頂いた点を踏まえて、文部科学省の地球観測推進部会に過去8年の取り組み全体について検討して頂いて、報告頂くことをお願いしたいと思えます。議題2は以上でございます。

議題3. その他

○相澤議員 議題3に移ります。山本大臣は、昨日御就任したばかりということで、今、大変多忙を極めておられるところでございますけれども、本日の科学技術政策担当大臣等と総合科学技術会議有識者議員との会合に御出席頂きました。総合科学技術会議がどんな状況かということも含めて、本日、残念ながら有識者議員の出席が非常に欠けているところがございますけれども、これから一言ずつ発言をお願いしたいと思います。まず、私から申し上げたいと思えます。有識者議員の相澤でございます。どうぞよろしくお願ひします。

お手元にカラー刷りの資料があると思えます。この資料に基づきまして簡単に御説明させていただきます。何と云っても、山中伸弥京大教授がノーベル医学生理学賞を受賞されたことが、科学技術基本計画においても一大エポックでございます。山中教授の最大の成果は、これまでES細胞として樹立されておりましたところに、飛躍的な新たな知の創造が行われた訳でありまして、iPS細胞が樹立されました。このような成果が、非常に短期間に評価されたという状況であります。次のページを見て頂くと、科学技術基本計画とのかかわりが御理解頂けるのではないかと思います。第2期の基本計画が進展している2003年に、科学技術振興機構(JST)が、CRESTという戦略的創造事業のプロジェクトで山中先生に約5,000万円というかなり大きな規模の予算を投入したことが、研究の立ち上げに大きく働いた訳であります。その後すぐにマウスでiPS細胞が樹立されるという画期的な成果が出てまいりました。翌年、ヒトでiPS細胞が樹立される。このように、非常に速い研究展開であった訳です。

この状況を受けて、総合科学技術会議は最先端研究開発支援プログラム、その中のFIRSTというプログラムをここでスタートさせた訳であります。この一連の動きの中に、ここには記載していませんが、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、これら関連する府省が極めて連携よくそれぞれの研究支援を行って参りました。このような形で、基本計画とともに進んだ極めてユニークな形で評価される内容だと思われまます。

これまでのノーベル賞受賞者は、20年或いは30年前までに大きな効果を出した、それが評価されているという部分がありますが、今回は研究の立ち上げからという状況であります。次のスライドを見て頂きますと、これまでに日本から数多くのノーベル賞受賞者が出て参りました。それからブレークスルーとして、例えばはやぶさだとか、ごく最近ではSpring-8を使って光合成を行うところの中心部分が構造解明されたとか、世界を驚嘆させた結果が出てきております。さらに世界トップレベルの注目度の高い論文も数多く出ています。ところが、国際競争が極めて厳しい状況になっておりまして、特に中国の進出が目覚ましい訳であります。しかし、競争だけではなく国際連携も大きく進んでいる。こういう中で科学技術のグローバルなエクセレンスを示していくことが大きな課題になっております。

次を御覧頂きたいと思えますが、これが第4期科学技術基本計画の3つの部分になります。

4期の基本計画は昨年の夏、閣議決定された訳でありますけれども、大きく3つに分かれます。基礎研究を強化すること、人材育成を強化すること、これらをベースにして社会的な課題に挑む科学技術イノベーションということで、科学技術とイノベーションを一体的に推進致します。特に震災からの復興再生、グリーンイノベーション、ライフイノベーション、これを重点的に成長分野としても展開していく、このようなところであります。そこで、これを進めていくときに、その下のページに書いてありますのは、科学技術の政策だけではなく、他の重要な政策と十分なる連携を持って進めていくことが極めて重要であろうということでもあります。イノベーション政策、それからエネルギー政策が非常に重要な位置づけになっているかと思いますが、こういうことを全体的にとらえて一体的に進めることが極めて重要である、このような位置づけになっておりますので、大臣におかれましては是非これを強力に推進することを宜しくお願い申し上げたいと思います。それでは奥村議員、一言お願い致します。

○奥村議員 奥村と申します。私は産業界からここへお世話になっているものでございます。今、相澤議員から4期の基本計画の話がございましたけれども、私の理解では、やはり科学技術政策或いは基本計画を広く、専門家だけではなくて国民のものにして頂きたい。その為に、大臣及び政治家の皆様が先頭に立って、国民に科学技術政策の意味、意義、国民にとってどういう有益なことがあるのかを御理解頂くように努めて頂きたい、ということでございます。1～3期計画まで15年間やってきまして、国費を60兆円投入してございます。これは国民1人当たりになおしますと、赤ちゃんから年金生活者まで1人50万円なのです。3人家族ですと150万円になる。15年間で150万円、決して小さくない金額だと私は思います。しかしながら、相変わらず科学技術政策が、やはり特定の専門家のものであって、広く国民に理解されている、或いは産業界に理解されているとは、残念ながら私には思えない。4期計画はイノベーション創出を狙っている訳でございますので、やはり国民に直接語りかけて頂く等して、或いは産業界にもっと国の政策にも関与してもらうようにして頂くといったことを是非、私も心掛けてきているつもりですけれども、大臣をはじめトップに立つ方がやって頂きたい。この前、再選されましたオバマさんも、実に科学技術政策を選挙演説でもされている訳です。こういう科学技術政策をやってアメリカの製造業を復権し、雇用を増やすのだといったことを直接語りかけていらっしゃる。日本でも是非やって頂きたい。そうすることによって科学技術政策全体の質がより良いものになっていくと考えてございます。是非御検討をお願いしたいと思います。

○大西議員 大臣、御就任おめでとうございます。大西隆といいます。私は設置法の5号委員ということで、有識者議員ではあるのですが、関係する行政機関の長として総理大臣が任命するというカテゴリーに入ります。私が長を務めているのは日本学術会議という組織であります。この会長が総合科学技術会議の議員を務めることが恒例になっているということで、去年の10月から務めています。学術会議は、御承知のように社会へ学術の成果を提言することを非常に重要な任務としておりまして、文科系から理科系、医学も含めて幅広いメンバーがおりますので、政府を通じて或いは政府に対して、或いは一般の国民に対して成果を提言するというのを継続してやっていきたいと思っています。それと、学術会議は伝統的に国際的な学術の連携といいますか、交流を非常に重視しておりまして、そういう活動もしております。乃木坂に私どものオフィスがありますので、是非一度お越し頂ければと思います。

総合科学技術会議の議員として2つだけ申し上げたいと思います。1つは、今も出ましたけれども、司令塔としての役割を強化していくということが、確か自民党の公約の中にも入っていたと思いますけれども、非常に重要な点だろう。科学技術立国を標榜している日本の中で、科学技術政策の方向をきちんと定めて進めていくということは極めて大事だと思っておりますが、これは前政権の積み残し、やれなかったことでもあります。しかし、前から司令塔強化は重要だということですので、是非そういうことを一歩進めて頂きたいと思います。2つ目は、科学技術イノベーション政策ということで、イノベーションということを重視してきている訳ですが、この1年少々の経験で、一つのポイントは、イノベーションしたものをどこで最終的に利用していくのか出口のところが、国内のマーケットをどう見るかですけれども、やはり日本は成熟して、これから少しずつ人口が減っていくのは避けられないということなので、やはり海外に広くマーケットを求めていくという考え方が必要ではないか。もちろん、日本のこれまでのやり方は、電気製品或いは自動車売って生業にしてきたというところがありますけれども、そこをもっと科学技術の成果がこもった国際協力をして、科学技術の成果そのものが輸

出の一翼を占めるということで、これは教育とか研究の連携ということもありますし、製品をつくるプロセスと一緒に育てていくということもあると思うのですが、是非科学技術の成果、或いは内容そのものを我が国の経済活動の武器としていくということで、最終ユーザーを国内に限るのではなくて、広くアジアを含めた世界に考えるという発想が必要なのではないかと思います。そういうことも含めて、非常に重要な政策分野だと思いますので、是非大きな成果を上げて頂きたいと思います。

○相澤議員 只今の御発言等も受けて、山本大臣から御就任の御挨拶も兼ねてお願いしたいと思います。

○山本大臣 何か同じ台詞をずっと繰り返しているのですが、この度内閣特命大臣を拝命しました山本一太でございます。宜しくお願い致します。今日は相澤議員、奥村議員、大西議員、総合科学技術会議の有識者の皆様、まさに日本を代表する頭脳の方々なので、お目にかかれて大変光栄に存じますし、今の最初のお話を聞いただけでも、この会議で色々な新しい情報に触れることを私は大変楽しみにしております。

先程、初めて記者会見をさせて頂きました。その時にも申し上げたのですが、内閣府の特命担当大臣の仕事のキーワードはまさに「横串」「司令塔」ではないかということをもスコミの皆様の前で申し上げました。つまり、司令塔として頭脳の役目を果たす。例えば、この総合科学技術会議の提言を如何に各省庁に実行してもらうか、各省庁を我々が出した色々なプラットフォームとか提言とかにどう巻き込んでいくか、この横串になれるかどうか恐らくこの仕事をきちっと出来るかどうかの鍵ではないかというお話を致しました。

元々内閣府が出来たときの理想は、各省庁よりも一段高いところにあって総合調整をするということでしたが、一段低いところでしているのではないかといいことを言う方もいたりします。

私がこの1日で勉強したことは、司令塔機能を如何にやるかです。1つは、やはり総理大臣にバックアップしてもらうということだと思います。もう一つは、奥村議員がおっしゃったように、私達は政治家なので、大臣自らが世の中に発信をして世論を作っていく。例えばはやぶさ計画というのは、ある意味で言うと科学技術に対する日本国民の関心を物凄く上げたということで非常に功績が大きかったと思いますが、あらゆる機会を通じて、科学技術の大切さを国民に訴えるということは大事なのではないかと考えています。

この特命大臣を受けたときに、安倍総理からこのように言われました。「民主党政権下で動きが止まってしまった」と言うと少し言い過ぎになりますが、大臣になったので言葉に気を付けなければいけないのですけれども、「やや動きが鈍くなってしまった総合科学技術会議を再活性化してほしい。ここはとても大事なところなのだ」と。

今日、記者会見でも申し上げたのですが、甘利大臣が産業競争力会議とこの総合科学技術会議の連携についてお話しされています。安倍総理も、自民党総裁選挙の地方遊説の時から、日本経済活性化のキーは科学技術とイノベーションだとおっしゃっていますので、私からも総理に早い機会に御連絡をして、とにかく会議に出て下さいということをお願いしたいと思います。自民党政権時代には1年間に7回か8回あった会議が、民主党政権で1回か2回になっている。これは、一言で言うと本部長の総理が来なかったからだと思います。恐らく「野田総理というか、3代の総理が他のことにかまけて」と言うと少し表現に気を付けなければいけないのですが、お忙しくて来られなかったということなので、安倍総理も活性化させてほしいとおっしゃったからには、とにかく総合科学技術会議を大事にして頂いて、出来るだけ本部長の総理に出て頂くように働きかけたいと思っています。

今日、奥村議員がおっしゃった「国民のものにしてほしい」というお話は、やはり広く理解されなければいけない。今、3期15年で60兆円、1人当たり50万円かけているということをお聞きして、私も是非あちこちで言いたいと思いますし、産業界の関与がまだまだ足りないということだったので、これも大臣としてここにいる限り一生懸命やりたいと思います。オバマ大統領が選挙で科学技術の演説をしたということですが、私も来年の選挙で科学技術の演説でおれるように、しっかり研鑽を積みたいと思います。

それから、大西議員から、学術会議の大変大事なお仕事をされていて、オフィスに来てほしいということなので早速乃木坂に行かせて頂きたいと思います。

司令塔強化は、この一日二日で一番大事だということをはっきり認識しましたので、一生懸

命やりたいと思います。

科学技術のイノベーションの出口の話は、安倍総理もとても気にされていまして、いい研究はあっても、それをどうやって出口に生かしていくか、即ち科学技術イノベーションを経済活性化に具体的にどう生かしていくかということが、恐らく総理御自身の命題でもあると思います。皆様の御意見やお知恵も色々と頂いて、一つのビジネスモデルというか、このイノベーションがまさに今、大西議員のおっしゃった経済活動の武器になる、しかも、どちらかという国内のマーケットというより、国際協力から輸出に結びついていくような、そういう流れがどう作れるのか、よく勉強させて頂きたいと思います。

この会議も出来るだけ頻繁に出席したいと思います。こういう崇高な、本当に日本の国益にとって大事な問題について御一緒に議論させて頂くことを大変光栄に存じているということを申し上げて、御挨拶とさせて頂きたいと思います。宜しくどうぞお願いします。

○相澤議員 有難うございました。大変心強い御発言を頂きましたので、是非私どもも頑張らせて頂きたいと思います。宜しくお願い致します。本日の大臣・有識者会合はこれにて終了させて頂きます。